



成長の自覚から新しい目標へ

のむら ひかる
学校長 野村 光

学校の正門を入り、少し進んだところに梅の木があります。今、まさに満開の時を迎え、かすかに懐かしい早春の香りが漂ってきます。枯れ枝ばかりが目立つ景色の中で、白いこの花は学校の一年の締めくくりが近いことを思い出させてくれます。

去年と同じように見える3月の校内の風景ですが、決してそうではありません。子どもたち一人一人に目を向けると一回り大きくなった体だけでなく、一年前には見られなかった、一人一人の成長の跡を感じることができます。

今年度は生活科と総合的な学習の時間の学びを、学校の重点教科として取り上げ、全クラスで授業改善に取り組んできました。「フラワーロス」の現状に問題意識をもち、捨てられるはずの花の苗を廃棄船に土を入れたフラワーボートで育てているクラス、地域に住む盲導犬ユーザーの方との関わりから、住みやすい安全なまちづくりについて考えるクラス、ゴーヤのグリーンカーテンづくりを通し、地球温暖化の問題に対して自分たちの意識改革に取り組んだクラス…等々、身近なことから課題をもち、様々な人たちと関わりながらそれを解決していく、たくましい子どもたちの学びの姿を見ることができました。2月22日の土曜日には6年3組の子どもたちが、「天の川フェスティバル」と題したイベントを実施しました。このクラスでは、自分たちが住むまちを魅力がいっぱいで、活気あふれる明るいまちにしたいというクラス共通の思いをもち、学習を続けてきました。活動の過程では思うように進まず壁に遮られることもありましたが、一つ一つ乗り越えてきました。そしてイベント開催当日、賛同していただいた8つの店舗が、それぞれ店のおすすめ商品を持って、体育館に集まってくださいました。沢山の来校者を相手に一生懸命にお店の魅力を伝え、接客をする子どもたちの姿は生き生きと輝いていました。協力してくださったまちの方の力添えもあってのイベントでしたが、それをも含み、多くの大人の心を動かした子どもたちのパワーに、成長の跡を感じた一日でした。

子どもたちが生きていくこれからの世の中ではデジタル化が一層進み、あふれる情報の中、自分で考えて取捨選択を繰り返していくことになります。令和7年度、学校では、一人一台の端末を活用しながら、子ども一人一人に応じた多様で柔軟な教育活動を目指し、さらに一歩進んだ取組で子どもたちの主体的な学びの在り方を支援していきたいと考えています。

梅の花が終わり、薄いピンクの桜の花に変わるころ、また新しい一年が始まります。一人一人が自分の成長を自覚し、自ら学ぶことを胸に秘め、新たな目標をもって次の学年を進んでほしいと思います。一年間、洋光台第二小学校の教育活動にご理解とご協力をいただきましたことを心より感謝申し上げます。これからも、学校に関わる人たち誰もが「明日もまた通いたくなる学校」を目指します。ありがとうございました。

